

【文京学院大学・「活動報告書」の書き方 講座】

(1) 「活動報告書」とは何か（文部科学省の方針）

- ◆「活動報告書」＝「高等学校までの学習や活動の履歴が把握できるようにするため」の報告書

〈記載内容の例〉

- ・「総合的な学習の時間」等において取り組んだ課題研究等
- ・学校の内外で意欲的に取り組んだ活動（生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等）
- ◆「志望理由書」「学修計画書」＝「各大学が、学部等の教育内容を踏まえ、大学入学希望者に対し、入学希望理由や入学後に学びたい内容・計画、大学卒業後を見据えた目標等を記載させる」

★「文京学院大学」＝「活動報告書」として、「活動報告」「志望理由」を各 400 字以内。

(2) 「活動報告」の書き方

① どういう「活動」を挙げるか。

大学が知りたいのは、〈どんなことをしてきた人なのか〉、〈そこから何を得たのか〉。
この二点をしっかり言いうる「活動」を選ぶ。

② 「何」を書くか。

〈大学の質問ポイント＝「活動を通して学んだこと」は何か〉

- 1 〈活動の具体的な内容〉＝どんな活動をどんなふうに行っていたのか。どんな点に力や時間やエネルギーを使っていたのか、どんな努力をしていたのか、苦勞した点は何かなど。
- 2 〈そこから何を学んだか〉＝人間的成長、精神的成長、人間関係に関する教訓、何かに取り組む時の心構え、協力して何かをなすことの歓び、社会活動の深い意義、進歩することの本質、異文化理解の困難さと楽しさ等々。
具体的に、自分の経験的実感に沿って書く。

③ 「どう」書くか。

- 1 〈活動の具体的な内容〉を順序よく具体的に説明する。
全体の半分（200 字）くらいを目安として書く。
 - 2 〈そこから何を学んだか〉を整理して具体的に説明する。
残り半分（200 字）くらいを目安とする。
- ・段落は、上の二点で少なくとも二段落。
1 あるいは 2 の説明が複雑になりそうで、一度分けた方がよさそうなら、さらに段落分けする。
 - ・文章、説明、構成、段落展開、読む人の読みやすさを考えて書き、添削する。

(3) 「志望理由」の書き方

①「どんなカリキュラムや施設」があるのかを知る。

大学のホームページや配布資料 → 自分が志望する学部・学科の授業カリキュラム
→ 各学年において何を学ぶのか、どんな授業があるのか、どんなゼミがあるのか、
どんな施設があるのか → 入学後の学修のイメージ

②「何」を書くか。

〈大学の質問ポイント＝「入学してから勉強したいこと」、「入学後の学修計画」、
「学んだことを将来の進路にどう活かすか」〉

1 〈自分が志望する学部・学科で何を勉強したいのか〉

四年間を通しての学修課題を一つに絞って説明してもいいし、いくつか並べてもいい。
具体的な内容と強い動機をアピールする必要がある。

2 〈具体的な学修計画〉

各学年における授業カリキュラムの進行、ゼミ、施設の利用などを念頭に置いて、
具体的な計画を書く。

3 〈それをどう仕事に活かすのか〉

志望している具体的職業を挙げて、先に述べた学修がどう活かされるのか、
具体的な展望を書く。

③「どう」書くか。

上の1・2・3を、この順序で段落を分けて、100字強くらいずつで書くとよい。

・これも、読む人の読みやすさを考えて書き、添削する。

(4) 「評価ポイント」

文京学院大学の「アドミッション・ポリシー」

(大学が求める学生像を示した学生受け入れの方針)

本学は、豊かな教養と実学の修得により、自立した人間として共生社会に寄与することのできる資質と能力とを備えた職業人の育成を教育の目標としています。そのため、入学予定者には、これらに必要な下記の資質を備えた人材を求めます。

- 1 高等学校の教育課程を幅広く習得し、これに基づいて読む・書く、聞く・話すことを通して他者とコミュニケーションし、協働することができる
- 2 社会の多様な事象に興味をもち、積極的に情報を整理して、主体的に判断し、表現しようとする態度をもっている
- 3 自らの専門分野の知識・技能に基づいて社会に貢献したいという将来目標と、それを誠実かつ勤勉に学習する意欲をもっている

↓

〈表現力＝書く力〉・〈情報整理能力・判断力〉・〈積極性・主体性〉・
〈勤勉な学習意欲〉・〈将来への積極的な展望〉

これら五項目を見たし得ているかを再検討し、仕上げる。